

授業科目名	教養総合D	担当教員名	濱田 英嗣				
科目ナンバリング	AD01N	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	日本の食の現状は「豊食・飽食」といわれている。海外から様々な輸入農水産物が流入する一方で、国内自給率は低下中である。食の外部化率が高まり、ファストフード消費が増加する反面、家庭の内食比率が下がり、健康的な日本型食生活の維持存続が危ぶまれている。こうした状況下で、国も食育基本法を制定し、日本人の健全な食生活に復活に取り組んでいるが、その成果は早期に顕在するものでなく、息長く取り組んでいくべき課題である。講義では「食と農・食と漁」や下関市の食と食育について総合的に学ぶ。						
到達目標	日本の食の現状(食の乱れ)について、その背景を含め説明ができる。 食の乱れに対して、国や市などによる対策(食育)について説明ができる。 下関など、各地域の伝統的食文化について説明ができる。						
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考				
	平常点	60					
	小テスト						
	レポート	40	到達目標が評価基準				
	定期試験						
	その他						
事前・事後学習	講義スケジュールに示した内容に沿って、事前にインターネットなどで下調べをすること。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
備考							

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスの講義内容に沿って、その狙いを解説する。 (本学 濱田英嗣教授) 9/26(水)
2	下関とクジラ 下関市を中心とした捕鯨産業の歴史と鯨食文化を解説する。 (地域共創センター 岸本充弘委嘱研究員) 10/3(水)
3	下関とフグ 下関市を中心としたフグの歴史、フグ食文化を解説する。 (下関ふく連盟 松村久理事) 10/10(水)
4	下関とウニ 下関におけるウニ加工業の歴史を中心にウニ食文化を解説する。(小川うに株式会社 小川剛太郎常務取締役) 10/17(水)
5	下関漁業と食 下関の魚食(日常食)は沖合底引き漁業との関連性が強い。漁業と食の関連性を下関市を中心に解説する。(水産大学校 板倉信明教授)10/24(水)
6	下関漁業の維持 新鮮な魚介類を提供している下関漁業の全般的な問題点、課題について学ぶ。(水産大学校 大谷誠准教授) 10/31(水)
7	農業から見た食育 農業という生産現場からみた食問題や食育推進の取り組みを解説する。(下関農業協同組合 藤川信久代表理事) 11/7(水)
8	栄養学から見た食育 食の乱れが健康に及ぼす影響について栄養学から解説する。 (下関短期大学 木村秀喜教授) 11/14(水)
9	小学生の食の現状と食問題 小学生の食の乱れについて解説する。 (文関小学校 松本久子栄養教諭) 11/21(水)
10	中学生の食の現状と食問題 中学生の食の乱れについて解説する。 (長府中学校 日高優子栄養教諭) 11/28(水)
11	料理教室から見た食問題 料理教室からみた食問題を解説する。また、食生活改善のための料理も解説する。 (下関市食生活改善協議会 家根内清美会長) 12/5(水)
12	食育の取り組み(プチウマ食育プラン) 下関市の食育への取り組みの現状、問題点について解説する。 (下関市保健部 榊原滋美栄養士) 12/12(水)
13	下関市の食育取り組みの評価と今後の課題 下関市の食育の全体的評価と今後の課題を解説する。 (本学 横山博司教授) 12/19(水)
14	魚食の危機と食育 魚離れに代表される魚食の危機に対して、国としてどのように対処すべきか解説する。 (本学 濱田英嗣教授) 1/9(水)
15	まとめ 食と農、食と漁のギャップ拡大、さらに内食の乱れなど食問題を社会経済面から総括する。 (本学 濱田英嗣教授) 1/16(水)